

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 金沢市立緑小学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他(例: 小中高一貫 )  

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

  
所在地 〒920-0373  
金沢市みどり1丁目166番地  
E-mail midori-e@kanazawa-city.ed.jp  
Website http://www.kanazawa-city.ed.jp/midori-e/  
幼児児童生徒数 男子 349名 女子 327名 合計 676名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校は、「ふるさと発見～地域の文化と願い～」を活動テーマとして、ESDを地域の良さに学び、地域の一員としての誇りをもつことと捉え、ESDの実践を通して伝統の継承と発展を担う人材の育成を目標とした。

具体的には、食、産業、文化を柱に、①伝統食に係わる活動、②伝統産業に係わる学習③伝統文化に係わる活動④伝統産業に係わる活動を行った。

#### ① 伝統食に係わる学習

3年生は、総合的な学習の時間に、地域に伝わる食文化である「押しずし」の体験をした。「押しずし名人」である地域の方から作り方を教わり、一人一人が押しずし作りに挑戦した。押しずしは、家族みんなで祭りを祝うために(家事で忙しい母親も手を休めて一緒に食事できるように)作られたという由来や、アジやサバといった地元でとれた魚や海藻など海の幸、収穫した米、そして殺菌作用を持つ葉蘭で包むなど、押しずしは先人の知恵であるとともに、自然の恵みそのものでもあることを知り、このすばらしい文化を自分たちも大切にしていきたいという思いを持っていた。

#### ② 伝統産業に係わる学習1

4年生は、総合的な学習の時間に、加賀友禅について学習した。本物の友禅に触れる前に、二俣和紙で作られたカードを用いた加賀友禅の彩色体験をした。友禅作家の新能知英氏を講師に招き、加賀友禅の彩色の特徴である「ぼかし」の技法を教えていただき、練習した。その後、あらかじめ「ぶどう」や「つばき」「らん」の下絵と糊置きがされ

た和紙カードに、五色の絵の具で「ぼかし」ながら色を塗り、糊を取って仕上げた。下絵からはみ出さずに、濃淡をつけていく塗り方の難しさを、児童は感じられていた。

さらに、校区にある加賀友禅の染色団地に見学に行き、加賀友禅ができるまでの過程について、学ぶことができた。下絵・彩色・中埋め・地染め・本蒸し・水洗いを実際に見せていただいたことで、職人の方々の技能の高さに驚き、反物一つを作り上げるのは手間のかかる大変な作業であることを実感していた。自分たちが和紙のカード作りで体験した「ぼかし」や有名な「虫喰い」の技法を用いて彩色された反物を見て、その美しさに圧倒されていた。また、あふれ出る伏流水の多さを見て、なぜ、専光寺に染色団地があるのかという疑問も解決できた。全国的にも有名な加賀友禅の制作が、自分たちの校区で行われていることを知り、誇らしい気持ちと、伝統を守っていきたいという気持ちを持つことができた。

### ③ 伝統産業に係わる学習 2

5年生は、総合的な学習の時間を中心に、米作りについて学んだ。地域の「米作り名人」、JA、本やインターネットから、「米ができるまでにどんな仕事があるのか」「米作りはいつ頃から始まったのか」「米にはどんな栄養があるのか」などについて調べた。また、実際に「田植え」「稲刈り」「乾燥」などの体験をした。11月には、収穫した米（みどり米：餅米）を使って、「もちつき」を体験した。当日は朝早くから、たくさんの地域の方が準備やお手伝いをしてくださった。

米作りの体験を通して、子ども達は、校区には豊富な地下水があり、田畑をはじめ、染色団地、用水など様々な場所で利用されていることを知った。また、いつもあたりまえのように食べているお米が、実は、たくさんの人々の苦労があってできたものであることを知るとともに、地域の方々とのふれあいを通し、自分たちの活動はたくさんの方に支えられていることを知る機会ともなった。

### ④ 伝統文化に係わる学習

今年度も、3、4年生は、地域に伝わる「二塚ジョンカラ」を運動会で披露した。「二塚ジョンカラ保存会」の先生方に指導していただく中で、子ども達は、「二塚」とは、校区にある「おまる塚」と「びわ塚」という2つの古墳に由来していることや、「大正時代にこの地域に伝わるいろいろな踊りを統合するものとして生まれた」という歴史、二塚ジョンカラが、「毎年の豊作を願って踊られた」ことなどについて知った。練習や運動会での発表を通して、地域とのつながりを感じるとともに、自分たちが、地域に伝わるこの二塚ジョンカラを受け継いでいく立場であるという思いを持っていた。



① 伝統食に係わる活動



② 伝統産業に係わる学習



④ 伝統産業に係わる学習



③ 伝統文化に係わる活動

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

書籍、ウェブサイト、パンフレット、CD

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

児童が自ら課題を見つけ、自ら考え、判断し、自己の生き方について考える能力を育てることを目標としており、教育課程では総合的な学習の時間を中心に位置付けている。課題発見につながる事象の提示を工夫したり、情報収集をサポートしたり、体験活動を充実させたりしながら、人との関わりを大切に、自己の生き方について考えることができるよう指導方法を工夫している。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

地域のネットワークを大切にし、地域人材をゲストティーチャーに招くなど継続的な連携を図っている。また、活動が単年度で終わらないよう、各学年の教育課程を系統的に編成している。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

評価方法としては、活動状況の観察、ワークシートによる評価、ゲストティーチャーとの振り返り、アンケートなどを活用している。地域の人との交流を通して地域の良さを学び、郷土への愛着をもてるようになってきている。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果

活動で学んだことをパンフレットにしたり、新聞にまとめたりしながら他学年や保護者、地域へと発信している。それによって学んだことを分かりやすくまとめたり、活動の意義を振り返ったりすることができていた。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

地域の婦人会やジョンガラ保存会等との交流活動の継続により、充実した活動を行うことができています。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

今年度は残念ながら大雪のため実施することができなかったが、市内の小中学校間でユネスコスクールの発表会が計画されており、その場で情報交流を行うことができる。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

他者と協力して活動したり、課題を解決しようとしたり姿が見られるようになったこと、また、積極的に活動に参加しようとする姿が見られるようになったこと。

### (3) 平成 30 年度の活動計画

地域との連携を軸に郷土への理解と愛着を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組む。

3 学年→地域に伝わる「二塚ジョンガラ」の伝承。郷土料理「押し寿司」の学習

4 学年→伝統工芸「加賀友禅」「金泊」等の学習

5 学年→米作り学習、餅つき体験

6 年→ふるさと金沢の歴史学習、福祉体験学習